

2024年  
令和6年

# 入学試験を施行

## 日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼 中原 泉  
編集人 行年 6 回  
発行価 1部 100円  
発定集室 (〒951-8580)  
新潟市中央区浜浦町1-8  
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク



1時間目は午前8時40分開始、担当者から注意事項を聞く受験生たち(2月1日)

## 両学部 の合格者発表

令和6年(二〇二四)の日本歯科大学前期入学試験は、2月初旬に本学で実施した一般選抜試験と大学入学共通テスト利用試験の二本立てで行われた。  
本学では本年も、同一試験日に東京と新潟の両学部を受験と併願が可能な「全学部入試」を、東京富士見の生命歯学部において、一般選抜と大学入学共通テスト利用試験で実施した。大学入学共通テスト利用の前期入学試験は8日、本学指定の科目の受験者に面接試験を実施し、10日に合格者を発表した。

准教授 三上 正人  
博士(歯学)  
教授に任命する(新潟生命歯学部微生物学講座) 新潟生命歯学部先端研究センター所長併任を命ずる  
大学院新潟生命歯学研究科の担当を命ずる(口腔感染免疫学)

大野助教受賞  
新潟生命歯学部病理学講座の大野淳也助教は、昨年7月22日の第23回日本外傷歯学会総会・学術大会において、論文「垂直性歯根破折を生じた大臼歯の臨床病理組織学的研究」で、優秀発表賞を受賞した。

島津講師受賞  
生命歯学部小児歯科学講座の島津貴咲非常勤講師は、11月12日の第40回日本障害者歯科学会学術大会において、演題「フェニトイン性歯肉増殖症への補完代替療法：ルテインによるTRPA1チャネルの阻害効果」で、優秀発表賞を受賞した。

両角教授受賞  
新潟生命歯学部歯科保存学第一講座の両角俊哉教授は、11月26日の第35回日本レジャー歯学会学術大会において、演題「スクエリング時の生体侵襲反応および光治療応用の効果」で、優秀発表賞を受賞した。

両学生祭が再開  
〈会告〉本学の学生祭はコロナ禍で休祭を余儀なくされていましたが、昨年4年ぶりに両学部とも再開されました。  
新潟の浜浦祭は、第52回「Re再生」をテーマに、6月11日に開催されました。

歯鏡  
両サイドの広告は、再開学生祭のポスターです。

## 五十嵐教授(東京)最終講義

生命歯学部歯科保存学講座の五十嵐勝教授の最終記念講義は、12月21日に九段ホールにおいて開催され、多数の教職員・学生が聴講した。演題は「新潟・東京の両学部で培った経験からのメッセージ」。

## 渡会講師受賞

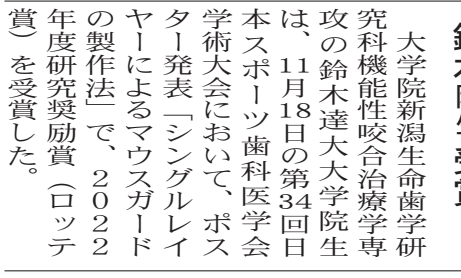
新潟生命歯学部歯科補綴学第一講座の渡会侑子講師は、11月18日の第34回日本スポーツ歯科学会学術大会において、ポスター発表「マウスガードシートの色の違いによる成形後の厚み変化」で、2022年度研究奨励賞(ネオ製薬工業賞)を受賞した。

## 馬場助教受賞

生命歯学部歯科矯正学講座の馬場龍一助教は、11月3日の第82回

## 鈴木院長受賞

大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学専攻の鈴木達夫大学院生は、11月18日の第34回日本スポーツ歯科学会学術大会において、ポスター発表「シングルレイヤーによるマウスガードの製作法」で、2022年度研究奨励賞(ロッテ賞)を受賞した。



浜浦祭 第52回  
THE NIPPON DENTAL UNIVERSITY  
SCHOOL OF LIFE SCIENCES AT NIIGATA  
テーマ「Re再生」  
6/11 10:00~17:00  
日本歯科大学 新潟キャンパス

第68回 富士見祭  
2023年10月28日(土) 29日(日)  
〜新時代〜



# 立春 村上一枝さんとマリのマディナ村の人たち,1990年頃 余寒

## 村上一枝さんの集大成

小学館より35年のマリ支援を記録

本学は創立以来の二一八  
年間に、二二〇〇二名の  
歯科医師を輩出した。こ  
の二万余のなかには、歯  
科医学・歯科医療にとど  
まらない、多歯多才な人  
材が散見される。

洋画家の中原實(4回  
卒)、アントワープ・オ  
リンピックの陸上選手の  
蓮見三郎(9回卒)、新  
興俳句の西東三鬼(14回  
卒)、台湾の中山医学大  
学の創立者の周汝川(29  
回卒)、マリ共和国住民  
の自立を支援する村上一  
枝(54回卒)等々が挙げ  
られる。

いみじくも、第24回日  
本歯科医学会学術大会の  
住友雅人会頭は、このよ  
うな異才・異彩の人を  
「ダブルキャリア」と称  
した。

とかく彼らは、本道を  
外れた変人と異端視され  
がちだが、彼らは、あく  
まで歯科をアイデンティ  
ティとして、異なる領域  
において開花したキャリ  
アである。

彼らの意外性と話題性  
によって、歯科医師の多  
様性、有能性、文化的、  
芸術性が評価され、歯科  
医師の本分がアウフヘー  
ベン(止揚)される。

このたび、村上一枝さ  
んは小学館より、玉著  
『悩んでも迷っても道は  
ひとつ』を出版した。

## 本紙縮刷版61冊目

### 会告

このたび新  
開会では、  
「日本歯科大学新聞」  
の令和5年(二〇二三)  
版を編集発行しました。

これは本紙のユニーク  
な企画として、昭和  
38年より刊行しており  
今号で61冊目になりま  
す。本紙を週刊誌大に  
縮小し、第六八一号か  
ら六八七号までを収録  
しています。

令和5年の日本歯科  
大学の活動を報道した  
全紙面が、そのまま縮  
小されて、本紙の動向  
と発展の歴史を記録し  
ています。

ご希望の方には、贈  
呈(無料)しますの  
で、FAXで「氏名」  
卒業回数・現住所」を  
〇二五(六七)一三三四  
へお申込みください。  
日本歯科大学新聞会

## 中原 泉 編著 平成時代の歯科教育改革の証言を総括した記録集

# 平成の歯科教育改革



A4版/372頁/定価5,500円(税込)  
ISBN978-4-87078-208-2

一世出版株式会社  
<https://www.issei-pub.co.jp>

# 村上一枝 著



# 悩んでも迷っても道はひとつ

マリ共和国の女性たちと共に生きた  
自立活動三〇年の軌跡

四六判/180頁  
定価 1,650円(税込)  
2024年2月22日  
発売

小学館  
愛読者サービスセンター  
<https://www.shogakukan.co.jp/>  
TEL.03-5281-3555

●ノーベル平和賞2020候補者が初めて綴る「考えるより行動、時々泣き笑い」の生き方エッセイ  
開業医を辞めてなぜ西アフリカ・マリ共和国でボランティアに!?

——自分では考えたこともなかったが、48歳、ゼロからのスタートは今思うと、かなり大胆で、やはり大きな決断だった。  
30余年続けた活動の軌跡を思えば、83歳になった今はとんでもできることではない。  
やはり若かったなと自分を懐かしく思う。